

1 戦災殉難者供養塔



基本情報

所 在：汀公園
 住 所：和歌山県和歌山市西汀丁27
 (JR・南海電鉄 和歌山市駅 徒歩15分)
 連絡先：都合により記載せず
 建 立 者：和歌山市
 建 立 年：昭和28年5月

碑 文

【表】
 爰寶塔者爲戦災殉難者各靈證大菩提也

【左側面】
 願以此功德平等施一切同發菩提心往生安樂國

【右側面】
 光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨

【裏】
 昭和二十年七月九日没

説 明 文

【表】

太平洋戦争の戦勢いよいよ急迫を告げる昭和二十年七月九日 米軍飛行機B29の大編隊わが市に襲撃し 深更三時間に亘って焼夷攻撃を恣にした

市街は紅蓮の炎に包まれ焦熱地獄 阿鼻叫喚の巷と化し此處約千五百坪の空地に避難する市民無慮数千 忽ち大旋風吹き起つて四辺の猛焰凄烈を加へ 無残非業に倒れる市民七百四十八名に上る

後市内に散在した戦災犠牲者の遺体を併せ 累計千数百体を茶毘に附してここに合同埋葬した
 こに和歌山開市以来の大悲惨事にして 戦争の惨虐また説くに忍びない
 乃ち供養塔建設會成つて大慈大悲の尊像を安置し 謹みて無辜にして戦争の犠牲となつた市民の靈を慰め 平和の悲願達成を祈るものである
 昭和二十八年五月
 和歌山市長
 高垣善一謹書

【裏】

昭和廿年七月九日夜太平洋戦争の魔手は遂に南国の理想郷和歌山市の上に伸び家を焼き人を殺し其惨禍恰も地獄図繪に似て眼を掩わしむ其夜難をこの地に避けたる者不幸にして戦火の犠牲となり地下に骨を埋む鬼哭愁々悲しくも亦痛ましき哉 此の戦争犠牲者に対し終戦後の混迷にも拘わらず佛教會の奉仕により法要を怠らず且は有志相寄りて供養塔建設期成會を起し普ねく浄財を集め焦土を整備し努力精進する事久し幸にして久保吉光君の協力により昭和廿八年一月廿五日建設の工成る慈悲菩薩の尊像在します処緑樹の陰に彩花を点ず誠に平和の樂園なり諸靈永へに安住の地とならば関係者の喜びこれに過ぎず刻して萬代に伝えんと爾云
 願主 和歌山新聞社
 小島正幸

2 和歌山市戦災死者追悼法要



※写真提供 和歌山市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：和歌山市戦災死者追悼法要
 会 場：汀公園 戦災死者供養塔 前
 (JR・南海電鉄 和歌山市駅 徒歩15分)
 日 時：平成23年7月9日(土) ※例年7月9日開催
 参列者数：約400人
 連絡先：和歌山市戦災遺族会

式 次 第 (平成23年度)

都合により記載せず

式 辞 (平成23年度)

都合により記載せず

3 中橋地蔵尊



基本情報

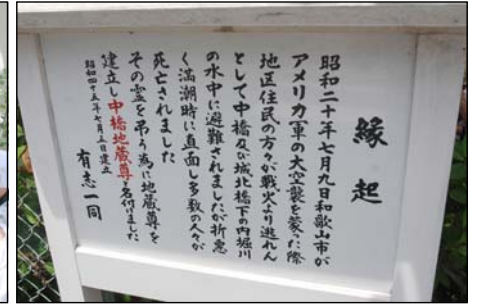
所 在：中橋北側
 住 所：和歌山市福町
 (JR・南海電鉄 和歌山市駅 徒歩10分)
 連絡先：都合により記載せず
 建立者：有志一同
 建立年：昭和45年7月5日

説明文

縁起

昭和二十年七月九日和歌山市が
 アメリカ軍の大空襲を蒙った際
 地区住民の方々が戦火より逃れん
 として中橋及び城北橋下の内堀川
 の水中に避難されましたが折悪
 く満潮時に直面し多数の人々が
 死亡されました
 その霊を弔う為に地蔵尊を
 建立し中橋地蔵尊と名付けました
 昭和四十五年七月五日建立
 有志一同

4 和歌山大空襲戦没者追悼法要



※写真提供 和歌山新報社

開催概要 (平成23年度)

歳事名：和歌山大空襲戦没者追悼法要
 会場：汀公園 戦災死者供養塔 前
 (JR・南海電鉄 和歌山市駅 徒歩10分)
 日時：平成23年7月9日(土) ※例年7月9日開催
 参加者数：約10人
 連絡先：個人であり記載せず

式次第 (平成23年度)

なし

式辞 (平成23年度)

なし

5 戦災死者慰霊地藏尊



基本情報

所 在：長保寺
住 所：和歌山県海南市下津町上689
(JR下津駅より 海南市コミュニティバス「長保寺」下車すぐ)
連 絡 先：長保寺 073-492-1030
建 立 者：下津町戦没者遺族会
建 立 年：昭和33年9月

碑 文

【表】

此の世界がいつまでも
平和であります様に
天台座主大僧正 玄秀

【台座・前】

平和地藏尊

【台座・左側面】

昭和二十年當下津町に於ける
戦災歿者諸精霊の御冥福と
永劫の安泰を祈り茲に
平和地藏尊を安置し奉る

【裏】

昭和三十三年 秋彼岸
願主 下津町戦災死者遺族会

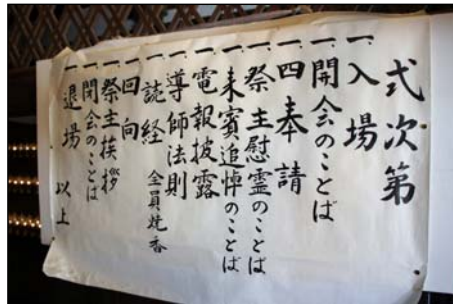
【台座・右側面】

維持昭和三十三年秋彼岸
奉建功德主
下津町戦災歿者
遺族会

【台座・裏】

願わくば爾今全世界人類
永遠の平和を成就せしめ給へ
願以此功德 普及於一切
我等與衆生 皆共成佛道

6 下津町戦災死没者慰霊祭



開催概要 (平成23年度)

歳事名：下津町戦災死没者慰霊祭
 会場：長保寺
 (JR下津駅より 海南市コミュニティバス「長保寺」下車すぐ)
 日時：平成23年9月24日(土) ※例年9月第4週の土曜日開催
 参加者数：約35人
 連絡先：海南市下津町戦災遺族会

式次第 (平成23年度)

1. 入場
2. 開会のことば
3. 四奉請
4. 祭主慰霊のことば
5. 来賓追悼のことば
6. 電報披露
7. 導師法則
8. 読経 全員焼香
9. 回向
10. 祭主挨拶
11. 閉会のことば
12. 退場

式辞 (平成23年度)

慰霊のことば

お彼岸を迎え、ここ国宝長保寺本堂に於いて海南市長 神出正巳様、和歌山県知事 仁坂吉伸様はじめ多数のご来賓の方々をお迎えして慰霊祭を催す事が出来ました。ここに謹んで慰霊の言葉を申し上げます。

昭和20年7月当時の下津町は文化財に囲まれ、農業・漁業・地場産業にと裕福で平和な町でした。何の前触れもなく敵機の無差別爆撃により、老若男女を問わず、尊い命が瞬時のうちに召されました。

その数52名に達したのであります。さながら地獄絵図そのものでした。安心して銃後の守りを固め、国家に忠誠であった御霊はさぞ無念のことであつたでしょう。残された肉親の思いも、いかばかりであつたか慙愧の念にかられるばかりでした。

戦争というものは、国家の権限において国家が始めるものです。当時の情勢下ではやむおえない事情であるにせよ、銃後の国民の生命・財産を国家の責任において守るのが当然のことだと思ひます。

しかし未だ守れなかつたことへの謝罪の言葉すらございません。戦後66年、時は移り日本は平和で豊かな国家を造り上げました。当の海南市下津町に於いても人々の心は和み、住みよい町に成りました。遺族にとつても、肉親と財産を奪われ途方に暮れる毎日でしたが、お互いの協力・努力により以前と変わらぬ、又それ以上の日々を過ごしております。

これも偏に御霊のご加護の賜物と心いたしております。残された遺族にとりましても諸霊の安らかな事をお祈りいたすと共に市当局・コスモ石油レブリカンツ(株)・その他地域の皆様方のご尽力、ご協力をいただきまして永年にわたり慰霊祭を行つて参りました。私達の方の続く限り慰霊祭を続けて参ります。

御霊が安らかに御眠り頂かん事をお祈り申し上げ慰霊の言葉といたします。

平成23年9月24日
 海南市下津町戦災遺族会 会長

7 有田市戦没者戦災死者追悼式



※写真提供 有田市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：有田市戦没者戦災死者追悼式
 会場：和歌山県有田市文化福祉センター 大会議室
 (JR箕島駅 徒歩5分)
 日時：平成23年4月29日(金) ※例年4月中旬開催
 参列者数：216人
 連絡先：有田市 市民福祉部 福祉課 0737-83-1111 (代表)

式次第 (平成23年度)

1. 開 会
2. 国 歌 斉 唱
3. 黙 祷
4. 追 悼 の 詞：有田市長
5. 追悼の詞(来賓)：和歌山県知事、有田市議会議長、和歌山県議会議員、有田市遺族連合会長
6. 電 報 披 露
7. 献 花
8. 副 市 長 挨拶
9. 閉 会

式 辞 (平成23年度)

本日ここに、多数のご遺族、ご来賓の皆様をお迎えし、平成23年度有田市戦没者戦災死者追悼式を執り行うにあたり、先の大戦で亡くなられた全ての御霊に対し、謹んで追悼の詞を申し上げます。

諸霊には、先の大戦、また、事変において、勇ましくも戦場に赴かれ、あるいは、銃後の守りのなかで痛ましくも散華されました。

ご家族の祈りもむなしく、あなた方は、再び帰らぬ人となりましたが、あなた方の尊い志は、ご遺族はもとより、日本国民一人ひとりの胸に深く刻まれ、家族を愛し、地域の絆を尊び、国を守る心としてしっかり受け継がれてまいりました。

しかし、私たちは、あなた方が我が命を捧げられ、築かれた平和と社会の豊かさに浸り、ややもすると私たちが大切にすべき心を見失いがちであります。

戦後に生まれた世代が、我が国で大半を占める今、戦争体験の風化が危惧されておりますが、先人の方々が、懸命にこの郷土を築き上げていただいたことに感謝の念を持ち、先人の方々に恥じぬよう、その魂、そしてその心を引き継ぎ、未来へとつないでいくことが、今を生きる私たちに課せられた責務として、しっかりと歩みを進めてまいりたいと存じます。

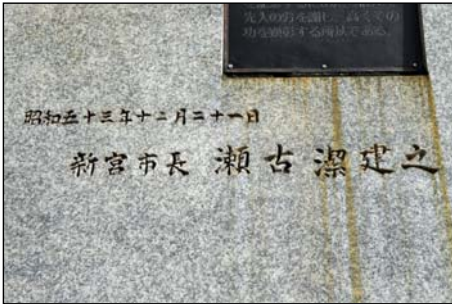
人を大切にする時代、心の時代といわれている今日、そして、未曾有の大災害に見舞われているこのような時こそ、私たちは今まで以上に心を合わせ、手を取り合って、社会の構築に取り組まなければなりません。

私も市長として、市民の皆様の大切なふるさとへの思いを生かし、誰もが心豊かに暮らせる、そして、元気で活力あふれるふるさとづくりに、全身全霊を尽くしてまいりますことを、また、被災地への復興支援を最大限行ってまいりますことをここにお誓い申し上げます。

今は唯、ふるさと有田市の安泰を見守ってくださいますことを願い、御霊の永遠に安らかなご冥福をお祈りし追悼の詞といたします。

平成23年4月29日
 有田市長 望月 良男

8 戦災震災 復興顕彰



基本情報

所 在：新宮市民会館
住 所：和歌山県新宮市新宮7696
(JR新宮駅より 熊野交通バス「新宮市民会館前」下車すぐ)
連 絡 先：新宮市 総務部 総務課 0735-23-3333 (代表)
建 立 者：新宮市
建 立 年：昭和53年12月21日

碑 文

【表】

戦災震災
復興顕彰

昭和五十三年十二月二十一日

新宮市長 瀬古潔建之

【裏】

木田泰夫選

【碑文】

第二次世界戦争による戦
禍に加え、昭和21年、南海
道大地震の二重災害に打ち
のめされた新宮市が焼土の
中から立ち上がり、県下屈
指の近代都市として明るく
復興を遂げたのは新宮市長
杉本喜代松翁

をはじめとする先人各位の
卓抜なる指導力と市民の努
力に負うところが大きい。

このたび市制施行45周年
を記念するにあたり謹んで
先人の労を謝し、高くその
功を顕彰する所以である。

9 慰霊塔



基本情報

所在：南谷墓地
住所：和歌山県新宮市新宮字南谷3465
(JR新宮駅より 熊野交通バス「イオン新宮店前」下車 徒歩5分)
連絡先：新宮市 生活環境課 0735-23-3333 (代表)
建立者：新宮市
建立年：昭和51年9月

碑文

【表】

慰霊塔

【裏】

昭和十九年十二月七日 震災による罹災者霊
昭和二十年四月七月八月 戦災による罹災者霊
昭和二十一年二月二十一日 震災による罹災者霊

【石柱・表】

戦災・震災犠牲者のみ霊よ安らかに

【石柱・左側面】

昭和五十一年九月 新宮市